

岩屋中だより

令和7年7月9日 NO11

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

長崎っ子の心を見つめる教育週間が終了しました。7月5日(土)は、情報モラル講演会、道徳公開授業、命の講演会、PTAがあり、暑い中参観していただいた保護者の皆さんや地域のみなさんありがとうございました。

例年ならば、梅雨の末期で豪雨災害が心配される中の教育週間ですが、今年は、梅雨明けして、気温がぐっと高くなった教育週間になりました。

さて、7月5日(土)の命の講演会の感想を紹介したいと思います。

命の講演会の感想

「明日が絶対に来るという保証は誰にもない」という言葉が心に響きました。1日1日を無駄にせず、自分自身も家族や周りの友達も大切にしながら生きていこうと思いました。

この世に生まれたということは、本当にすごいことだと知り、改めて、お母さんやお父さん、自分をここまで育ててくれたたくさんの人に感謝の気持ちを忘れないにしようと思いました。たくさんの軌跡が重なって自分は今元気に生かされているだなということを感じました。生きている意味がわからなくなったり、生きるのがつらくなったりしたときには、今日のこの講話のことを思い出して、自分を大切に生きていこうと思います。

僕は命の講演会に参加して、命や親の気持ちについて考えることができました。父さんがなくなってしまった話などを聞いて、命はどれほど大切なものなのかがわかりました。自分がどのような軌跡で生まれてきたのかを感じました。今までは、ニュースやほかの人が亡くなった話を聞いても正直他人事で、あまり心には響き渡りませんでした。けど、この講演会の話聞いていくほどどのような気持ちを抱いていたのだろうか、少しは考えてみようと思いました。これからは、親の

気持ち、支えてくれた人の気持ちとか考えてみようかと深く思いました。親への感謝の気持ちを忘れないという気持ちに気づかされました。そして、生んでくれた親に感謝し、悔いが残って亡くなった人の分まで精一杯人生を全力で楽しもうと思いました。

すごい確率で産まれてきたことに不思議な気持ちと感謝の気持ちでいっぱいでした。今ここにいることが当たり前じゃないんだと気づかされました。おなかの中にいる時の記憶は全くありませんが、私はとても愛されて育てられたのかと思いました。それなのに、私は親に、なんで私を産んだのかとか、生きたくないなど声を上げて言っていたことがあります。謝りたいし、これから辛いことがたくさんあっても人生には楽しいこともたくさんあると思い、頑張ろうと思いました。そして、大切な人が亡くなるとき、最後まで感謝し、支えたいと思いました。帰ったら、親に感謝したいと思いました。

私は、命の講演会を聞いて、改めて命って一番大切なものだと思いました。明日を迎えることができず、災害や突然の病で亡くなる人がいる中、自分は今日まで生きてこられたや、周りにいつも支えてくれたり応援してくれたりする人がいて幸せだなと感じました。自分は、奇跡が起って、そして命がけて産んでくれたで今があるので、感謝の気持ちを忘れてはいけないし、伝えたいです。また、いつ人は亡くなるか分からないので、一日一日をかしめて生きていきたいです。今回の講演で命の重大さを知ることができました。一人亡くなれば、悲しむ人が必ずいるから、「自分なんか」と思わずに自分なりの幸せを見つけます。

自分は親にとっても愛されているのだなと思いました。私は、反抗期っぽい行動や発言はあまりないけど、中学生になってから、家庭より友達を優先したり、動画を見ながら親の話を聞いたりとは変わっていることも自分では分かっていました。災害や家庭の事情で親がいなくなってしまった人も少なくないことを知りました。また、子どもは、命がけて産まれてくることを知り、お母さんに感謝しなきゃなと思いました。今回の講話をきいて、私は、親の笑っている顔が好きだなと感じました。帰ってから今日の講話の内容や感謝の気持ちを伝えました。時間に余裕がなかったため、また今度しっかり話したいなと思いました。自分が赤ちゃんの頃の話や兄の話を聞いてとてもおもしろかったし、講話の後だったのでとても感動しました。

親が産んでくれた一つの命だから大切にしたい。今まで育ててくれた親に感謝したい。途中で亡くなってしまった赤ちゃんやお母さんのためにも大切な命だから大切にしようと思った。親に最近悪口など言うてしまう回数が増えてきていて、今回の講演会を聞いて、親が14年間育ててくれていることを再確認できたから、今日から親に「ありがとう」の一言でも感謝の気持ちを伝えたい。今まで育ててくれてありがとう。いつか恩返しするね。

親は自分を命がけて産んでくれて、産んでからもゆっくり生活ができなかったり、よく眠れなかったり大変な思いをして育ててくれたことを実感しました。明日が絶対に来るとは限らず、東日本大震災で親を亡くした子どもや、子どもを亡くした親など生きたくても生きれなかった人もたくさんいて、私はその人たちの分まで、1日1日、1分、1秒大切に生きていきたいです。自宅で、命をかけて産んでくれてありがとう、産んでからも大変な子育てをしてくれてありがとう。これからもよろしくお願いしますと伝えました。

今回、命の講話を通して、当たり前と感じていた「生きていること」の意味を改めて深く考えさせられました。私は、何気なく今まで毎日を過ごしていたけれど、でも、それは消えて当たり前のことではなく、周りの支えがあってこそ成り立っているのだと気づかされました。また、講演会の中で話されていた「こんなふうに過ごしていても、誰も明日何が起こる

か分からない」という話を聞いて、私も当たり前と思わず、毎日を大事に生きようと思いました。講演を通して、命は一人のものでなく、家族や周りの人とつながっていると感じました。

今日の講話で生きていることの奇跡を実感しました。私は、最近、親に反抗してばかりで、親の気持ちを分かってやれない日が多かった。また、親の気持ちを聞くと、胸が痛くなった、これから、今の自分を見つめ直して、命を大切にしながらかけがえのない日々を過ごしたい。命の大切さ・尊さ、母親から自分への想いや愛情、親の本当の気持ち、友情、産まれたことの奇跡、感謝をするべきと言うこと、自分たちがどれほど望まれて生きているのかなどを心に感じた。

暑い……

猛暑という言葉が毎日のようにニュースなどの報道で耳にするようになりました。35度以上の日が続き、湿度も高く、もはや、日本は、亜熱帯地方ではないのか?という気がします。

学校では、登下校および授業時の服装を体操服や岩屋Tシャツでもよいことにしています。もちろん制服でも大丈夫です。また飲料も、ポカリスエットやアクエリアスなどなどのスポーツ飲料も許可しています。

熱中症の予防には、朝食をしっかり摂ること、睡眠時間を確保すること、水分だけでなくミネラルの補給などが必要だそうです。既に各ご家庭ご対応いただいているところではございますが、改めて、お願いを申し上げます。

命の講演会の感想を読むとき、この講演会を開催してよかったと思いました。感想は一部の感想しか紹介していませんが、クローラーが効いているとは言え、暑さの中で吉松先生のお話を真剣に聞いたのだなと感じる感想ばかりです。始業式とか終業式など全校生徒の前に話をする際に、話をしてきた内容と重なることもあり、私自身も吉松先生のお話は、大変勉強になりました。真剣に命について考えた生徒ばかりであることを誇りに思います。